

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病虫害防除所長
(公印省略)

平成24年度病虫害発生予察特殊報第2号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成24年度 香川県病虫害発生予察特殊報第2号

1. 病虫害名: **モトジロアザミウマ**

学名 *Echinothrips americanus* Morgan

2. 発生作物名: **ディーフェンバキア、シンゴニウム (サトイモ科の観葉植物)**

3. 発生地域: 観音寺市

4. 発生経過

- 平成25年1月に、暗褐色のアザミウマが葉に寄生しているディーフェンバキアが、普及センターを通じて持ち込まれた。この植物では、カスリ状の食痕とアザミウマの成虫、蛹、幼虫が確認された。
- 既発生のアザミウマ類と異なる特徴が観察されたため、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、2月6日に本県未発生のもトジロアザミウマであることが確認された。
- 現地調査の結果、周辺の花き農家での発生は確認できなかったが、同一農家のシンゴニウムにおいてもカスリ状の食痕と本種成虫が確認された。
- もトジロアザミウマは、これまでに東京都(平成11年)のインゲン、愛知県(平成14年)のオオバ、高知県(平成15年)のミョウガ、鹿児島県(平成16年)のハイビスカスで発生が確認されている。

5. 形態

成虫は体色が暗褐色で、頭部と胸部の節間が赤みを帯び、前翅の基部および中央が灰白色である。体長は雌が1.6mmで雄は1.3mmである。幼虫は黄白色でやや細長く、複眼が赤い。また、体全体が刺毛に覆われている。蛹は胸部から腹部にかけてやや膨らんでおり、体全体に刺毛がある。

特に、成虫の前翅基部は白いラインが入ったように見え、形態的な特徴となっている。

6. 生態及び寄生作物

- ディーフェンバキアとシンゴニウムにおける被害は不明瞭であるが、淡緑色の葉に寄生した成虫は目につきやすく、見栄えを損ねる場合がある。
- 卵から成虫までの生育期間は、20℃で33.9日、30℃で11.4日とされ、高温下であれば短期間に世代を繰り返す。
- 寄主範囲は広く、花き類のポインセチア、バラ、ハイビスカス、施設野菜のシソ、キュウリ、メロン、ナス、トマト、ピーマン、インゲンマメの他多くの観葉植物等で成幼虫の寄生と加害が確認されている。

7. 防除対策

- 1) 本種は各種薬剤に対する感受性が高いと思われるので、花き類・観葉植物のアザミウマ類に登録のある薬剤により防除を行うことができる。ただし、幼虫には効きにくい場合があるので、防除は異なる薬剤を10～15日間隔で2～3回散布するのがよい。
- 2) ハウス開口部に防虫ネット（1mm目合以下）を張り、成虫の飛来を軽減する。
- 3) 雑草などに寄生する可能性があるため、圃場内外の除草を行う。



モトジロアザミウマ成虫



モトジロアザミウマ蛹



モトジロアザミウマ幼虫



ディーフェンバキアの葉裏に寄生した成虫と幼虫

8. 引用文献

- 1) 伊藤 啓司・大野 徹(2003)：シソの新害虫モトジロアザミウマ（仮称），植物防疫，57：223～225.
- 2) 鹿児島県病害虫防除所(2004)：平成15年度病害虫発生予察特殊報第1号.
- 3) 高知県病害虫防除所(2004)：平成15年度病害虫発生予察特殊報第6号.

農薬は使用基準を遵守し、ラベルをよく見て使いましょう。
香川県農業試験場病害虫防除所ホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/kagawa/>